

鎌倉地域の漁港についてワークショップが進行中！

● 第2回及び第3回ワークショップ開催

「(仮称)鎌倉地域の漁港にかかるワークショップ」が10月15日と29日、鎌倉市役所811会議室において開催されました。

第2回(15日)は、早朝から強風の吹く悪天候にもかかわらず、多くの参加者にお集まりいただき、ワークショップに対する様々な意見や要望が活発に出されました。

ワークショップでの具体的な議論は、まだ始まったばかりで、参加者にも運営側にも戸惑いがありますが、議論は少しずつ前進しています。

今回、ニュースレターVol.2では、このワークショップで行っているグループワークについて、ご紹介します。



第2回ワークショップの会場

● ワorkshopでは、どんなことをしているのでしょうか？

はじめに、ファシリテータからグループワークのテーマが提案されます。第2回のテーマは「ワークショップでの達成目標の明確化」、第3回は「漁業の現場から見た漁港建設の必要性」と「漁業関係者以外から見た漁港建設への意見」でした。

▶ どうやって話し合うの？

参加者は、5～8人を1グループとして5つのテーブルに別れて、テーブルごとにその日のテーマについて意見を出し合いながら議論、整理していきます。

▶ みんなが意見を言えるの？

参加者は意見を、カード(大型の事務用付箋紙)に書き出して、模造紙に貼り、参加者同士で議論しながら分類していきます。

分類する項目は、事務局からも提案しますが、例えば「できること」「できないこと」や「知りたいこと」「解らないこと」など、参加者自身が決めることもできます。

このワークショップでは、テーマに沿っている限り、参加者が自由な発想で議論を進めることができます。



グループワークの様子

▶意見がまとまらない場合はどうするの？

グループワークでは、相反する意見が出されることがよくあります。自分自身の意見や要望を発表するだけでなく、他の参加者の声を聴き、それを尊重して、お互いに理解し合うことが大切です。これらを参加者自身で実践していただくのが基本なのですが、参加者だけで意見をまとめられない場合もあります。

グループワークを行うテーブルには、それぞれ議論のリード役（グループファシリテータと呼んでいます）がつきます。また、主催者である鎌倉市の担当職員、支援業務を委託されている（財）漁港漁場漁村技術研究所の研究者らが意見の整理や様々なご質問に対応します。

なお、グループファシリテータは、東京工業大学齋藤研究室の研究生が担当しています。

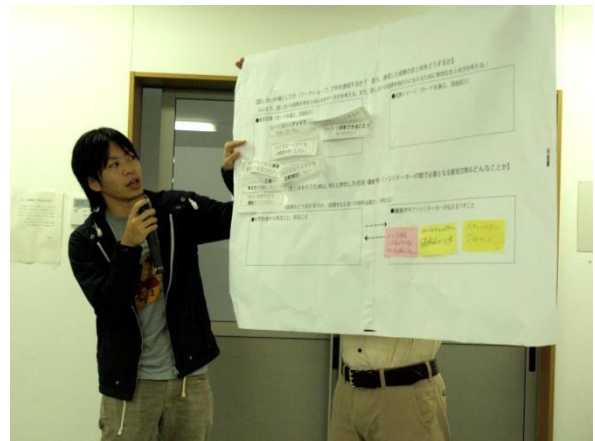
▶ワークショップは、参加者の話し合いだけなの？

グループワークでは、最後に各グループから議論の内容・成果を発表します。

発表は3～5分程度で、グループファシリテータまたはグループの代表が発表します。これにより、ワークショップ参加者の共通認識やグループ間での意見の相違をみんなで共有します。

また、グループ発表の後には、全体での意見交換も行います。ここでも、参加者から出された意見は、その場で壁紙（模造紙）に書き出します（3面写真参照）。

このように全ての意見は記録され、今後のワークショップ資料に反映していきます。



グループワークの成果発表



傍聴者によるグループワーク

▶傍聴者は何もできないの？

今回のワークショップでは、より多くの方から意見をお聴きしたいことから、傍聴者にも参加者と同様のグループワークを行っていただいています。

また、傍聴者は、意見交換での発言はできませんが、アンケートを記入することで、参加者と同様に意見や要望を伝えることができます。参加者及び傍聴者からのアンケートに記入された全ての意見や要望は、次回のワークショップ資料として提示されます。

▶ワークショップでは何を決めるの？

「（仮称）鎌倉地域の漁港にかかるワークショップ」は、「鎌倉地域の漁業」と「漁港」について考えるために開催しています。

ワークショップは、参加者である市民や海岸利用者の目線で意見や要望を出し合い、これからの鎌倉地域の漁業や漁港の在り方、海岸利用などについて、行政（鎌倉市）に伝えたいことを話し合ってもらえる場なので、何かを決定する機関ではありません。

● 第 2 回ワークショップの概要

開催日時：平成 23 年 10 月 15 日（土） 10：00～12：00

開催場所：鎌倉市役所 811 会議室

参加者：市民参加者：公募市民 16 名
関係団体 12 名、計 28 名
傍聴者：30 名

ファシリテータ：

齋藤潮氏（東京工業大学大学院
社会理工学研究科教授）

プログラム：

第 1 部

- ① 第 1 回ワークショップで出された意見
- ② 第 1 回ワークショップで出された主な論点
- ③ ワークショップの主旨、進め方
- ④ 前提条件の整理・確認

第 2 部

- ⑤ ワークショップでの達成目標の明確化
- ⑥ グループ作業の結果発表と意見交換



アドバイザー橋本氏による参加者意見の書き出し

第 2 回ワークショップでは、ワークショップの前提条件、情報の不足、話し合いの方法などについて議論が交わされました。第 2 部ではわずかな時間ではありましたが、グループワークも行って、雰囲気も少しずつワークショップらしくなってきました。

参加者（傍聴者も含む）に行ったアンケートでは、次のようなご意見が寄せられました。

- ・漁業者の話、意見が聞けて良かった。
- ・漁港建設以外のアイデア（漁業を守る）も募集して比較すれば良い。
- ・もっとグループワークに時間を使ってほしい。
- ・もっと参加者同士の意見が聴きたい。
- ・パブコメの前に「市政便り」の号外を出して市内全世帯に配布する。
- ・反対する人の具体的な理由が知りたい。
- ・港を造りたいという様々な意見が聴きたい。
- ・せっかく漁港を造るなら「鎌倉 海の駅」みたいなものが一緒にできれば！
- ・市が使うことを想定したアウトプットフレームを示しても良いのでは？

など

● 第 3 回ワークショップの概要

開催日時：平成 23 年 10 月 29 日（土） 10：00～12：00

開催場所：鎌倉市役所 811 会議室

参加者：市民参加者：公募市民 12 名
関係団体 11 名、計 23 名
傍聴者：29 名

ファシリテータ：齋藤潮氏（上記参照）

プログラム：

第 1 部

- ① 第 2 回ワークショップで出された意見
- ② これまでに確認された事項について
- ③ 本日の討議（グループワーク）について



前回までのグループワーク結果を掲示して、参加者が自由に閲覧できるようにしている。

第2部グループワーク

- ④ グループワーク
- ⑤ グループ発表（各グループ4分程度）
- ⑥ 意見交換

第3回ワークショップでは、“漁業の現場から見た漁港建設の必要性”や“漁業関係者以外から見た漁港建設への意見”といったより具体的なテーマに沿ってグループワークを行いました。

議論された主な内容としては「環境への影響の懸念」「建設費用、費用対効果」「景観や生活環境への影響」「マリンレジャーとの共存」「地産地消／地魚の市内流通」「地域産業の発展・活性化への寄与」など多岐にわたりました。

また、市民と漁業者が直接話し合うことで、普段の漁業の様子や苦勞なども聴くことができました。各テーブルでは、漁業者と直接対話することで、これまで疑問に感じていたことや考えていたことなどを意見交換でき、有意義な議論の場となりました。

● ワークショップの傍聴にいらっしゃいませんか？

鎌倉市では、「(仮称)鎌倉地域の漁港にかかるワークショップ」の傍聴者を随時募集しています。

傍聴をご希望の方は、事務局（下記参照）まで、お問い合わせください。

なお、鎌倉市のホームページに『(仮称)鎌倉地域の漁港にかかるワークショップ』を開設しています。ワークショップ配付資料などがご覧頂けます。

ワークショップスケジュール

- 第1回：9月17日（土）終了
- 第2回：10月15日（土）終了
- 第3回：10月29日（土）終了
- 第4回：11月20日（日）終了
- 第5回：12月11日（日）
- 第6回：1月14日（土）

※開催時間は全て10:00～12:00

アドレス：<http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/sangyou/workshop/kamakurawk.html>
ホーム>産業・まちづくり>水産業>(仮称)鎌倉地域の漁港にかかるワークショップ

♠ ♡ ♠ 編集後記 ♡ ♠ ♡

10月29日に催された第3回ワークショップでは、漁業関係者ならびに漁業関係者以外の方、双方の視点から漁港建設の必要性や意見について、グループワークを軸として白熱した議論が進められました。しかし随所において、我々の力量の欠如により参加者全員の意向や主張を引き出すことができなかつたことも否めません。

ワークショップ自体も4回目が終了し、議論の進展が望まれる中、多様な立場からの様々な意見を引き出せるよう、我々学生一同は参加者皆様のお役に立てますよう全力を挙げて取り組んでまいりますので、今後とも宜しくお願い致します。

齋藤研究室所属 ワークショップ参加学生一同

発行者／事務局：鎌倉市市民経済部産業振興課

TEL：0467-23-3000（内線2481） FAX：0467-23-7505

市HP：<http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/>

編集：(財)漁港漁場漁村技術研究所